

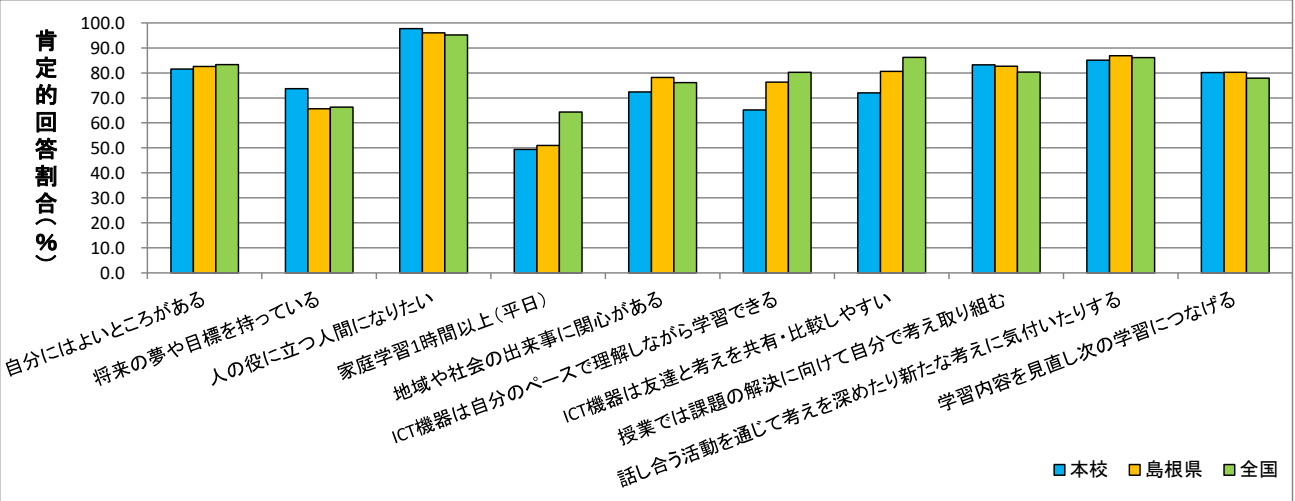
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○知識・技能に関する問題の正答率は全国平均を上回っており、基礎的な力は身に付いていると思われる。 ●「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に関する問題の正答率が低く、自らの考えを表現する力が十分ではないと考えられる。	・自分の考えを小グループで話し合ったり、全体場で発表したりする学習を意図的に取り入れる。また、課題内容や発問の仕方を工夫するなど生徒が主体的に取り組み、対話の中で意見交流ができ、考えを深めることができるような授業づくりに努める。 ・授業や短学活等において、短作文等を書く時間を設け、書くことの抵抗感を低減する。さらに、短作文をカードで掲示したり、発表し合ったりして、互いに表現する力を伸ばせるよう工夫する。
数学	○それぞれの領域で、全国・県平均を上回る正答率であった。基礎基本を理解し、小テストや演習でそれらを定着させる指導と、個を育てる指導の成果が出ていると思われる。 ●説明や証明などの記述を要する問題、特に図形領域での正答率が低く、無回答率も高くなっている。図形を数学的に思考し、適切に表現することが苦手である。	・数学的活動を増やし、考える場面を多くする。また、数学用語を用いてペアや小グループで説明する場面を多くすることで、数学的表現力や思考力を高める。 ・個に対する振り返り指導や小テストなどを継続し、総合的な数学力の定着・向上に努める。

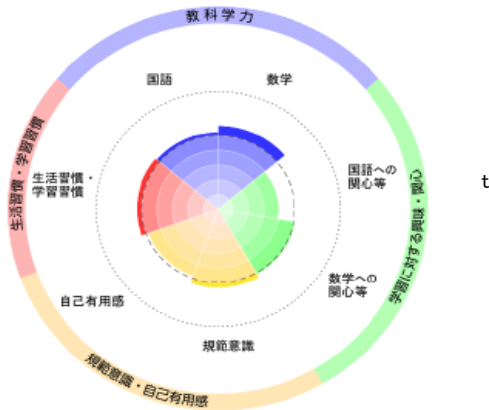
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」という意識が県や全国と比較して高い。総合的な学習の時間やキャリア教育、ふるさと教育等を通して得られた成果だと考えられる。 ●ICT機器の活用ができていていると感じている生徒の割合が低く、授業・学習におけるICT活用が課題である。 ●家庭学習の時間が県・全国平均を下回っており、授業と家庭学習を関わらせた指導が課題である。	・教員がICT活用研修等で学んだことを校務・授業で活用する。また、授業づくりにおけるICT活用について、クラウド活用を含めた取組を推進する。 ・家庭学習の充実のため、授業と家庭学習を関わらせた指導の工夫と、自学ノート・タブレットドリルの活用の工夫を検討する。

(3)質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・総合的な学習の時間を中心に、自らの考えをまとめて発表する活動等に向けて探究する過程を踏まえ、これまでの学びを生かしてテーマについてのプレゼンテーションを行うなど、思考力や表現力を育成する。

【受検者数】

224 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

貴校の数値の入力をお願いします。

※「（記入にあたって）シート」参照

【質問紙調査の結果データ入力】

選択肢	質問番号			本校	島根県	全国
1・2	(9)	1	自分にはよいところがある自分にはよいところがある	81.5	82.6	83.3
1・2	(11)	2	将来の夢や目標を持っている将来の夢や目標を持っている	73.7	65.7	66.3
1・2	(15)	3	人の役に立つ人間になりたい人の役に立つ人間になりたい	97.7	96.0	95.2
1・2・3	(21)	4	家庭学習1時間以上(平日)家庭学習1時間以上(平日)	49.4	51.0	64.3
1・2	(25)	5	地域や社会の出来事に関心がある	72.4	78.2	76.1
1・2	(28-1)	6	ICT機器は自分のペースで理解しながら学習できる	65.2	76.3	80.2
1・2	(28-6)	7	ICT機器は友達と考えを共有・比較しやすい	72.0	80.6	86.2
1・2	(30)	8	授業では課題の解決に向けて自分で考え取り組む	83.2	82.7	80.3
1・2	(33)	9	話し合う活動を通じて考えを深めたり新たな考えに気付いたりする	85.1	86.9	86.1
1・2	(34)	10	学習内容を見直し次の学習につなげる	80.1	80.2	77.9